

月形町

議会だより

号外

2024.5.1

各団体と議会との懇談会

特集号



～「もっと知りたい」「もっと知ってほしい」～

当議会は、まちづくりに関する初めての取り組みとして、3月21日に町内各団体の関係者と懇談会を行いました。テーマは「人口減少下の月形 どうなる? どうする?」で、3つのグループに分かれて話し合いました。

参加者からは、テーマにとどまらず、さまざまな意見が寄せられました。内容については抜粋要約して掲載させていただいており、全て月形町議会の責任でお届けします。参加された皆様、また関係者の皆様、誠にありがとうございました。

議長 大釜 登

●参加団体

月形商工会・商工会婦人部・商工会青年部・JA月形町・JA女性部・JA青年部・月形土地改良区・月形愛光園・月形藤の園・雪の聖母園・つきがた友朋の丘・社会福祉協議会・赤十字奉仕団・更生保護女性会（敬称略） 計22名の方々

- 参加議員 大釜登 議長 Aグループ：我妻耕・若井昭二 Bグループ：東出善幸・滝口伸
Cグループ：金子廣司・松田順一

月形町議会だより

号外

発行日：令和6年5月1日 発行：北海道月形町議会 編集：広報特別委員会

T 061-0592 北海道月形町1219 TEL 0126-53-2321（内線372） FAX 0126-53-4373
E-mail gikai@town.sukigata.hokkaido.jp

私たちも・・・

民間でもできることは、やっていかないと、町が衰退してしまうと思う。

この4月から新しい刑務所所長が月形に着任されますが、更生保護女性会との関わりのほか、**町との関係も重視していただければ**と願っています。

町外の有識者の方が、「この町は、**町民が町に依存しすぎ**ていますね。」と意見を述べられていました。
町づくりについては、私たちが意識を変えなければと思うようになりました。

赤十字奉仕団では、現在、53名の団員の協力を得て事業をしています。団員を増やすため、女性ばかりでなく**男性も募集**します。

民間としては、**面白い人を町に集めたら**、その相乗効果で今まで気づけなかった発想ができるのではないかと、人材を集めることに対して微力ではありますが頑張っているつもりです。

よろしくお願いします



新たな形での懇談会の開催で、どうなるかと不安でしたが、大勢の方々に集まっていただき、各グループとも時間も足りないくらい盛り上がりを見せて、本当にありがとうございました。

参加者のご意見、生の声は、私たちにとって、そして月形町にとっても貴重で、新鮮で、重要なものばかりであり、中にはすぐにでも議会に取り上げるべきものもありました。議会の中で、形にできればとも考えています。取り上げたその結果につきましたは、そのつど「議会だより」などで皆様にお知らせいたします。

また、私たちはこのような町民の方々との懇談会を、対象の方々や方法、内容を見直して今後とも開催したいと思っています。その節は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ、地方自治体・経済活動が活発化し始めているなか、月形町も色々と動き始めています。これから、議会の重要性を議員一人ひとりが意識をしつつ、資質向上に努めていきます。私たち議会、取組み、「議会だより」などにつきますし、どうぞご意見ご感想をお寄せください。

（若井）

広報特別委員会

委員長 松田 順一
副委員長 我妻 耕
委員 若井 昭二
委員 滝口 伸

活性化にお力を!

月形町議会

議員補欠選挙!

投票日

9月29日(日)

月形町長選挙とともに、月形町議会の議員補欠選挙が行われます。

立候補や選挙などについてのお問い合わせは、

月形町選挙管理委員会まで



福祉 新たな取り組みも



要介護認定審査会で、審査するまで1か月待ち、審査会後の決定まで、さらに1か月かかってしまう。結果によっては、**入所したい所にいけない。**

デイサービスセンターの利用者さんの数が年々少なくなっています。

デイサービスとは何か、いかに活用してもらえるのかを、どう説明すれば良いのかと悩んでいます。

デイサービスの利用者さんが、お買い物や床屋に行く時に、**送迎のお手伝い（保険外サービス）**ができればいいな、と動き出し始めているところです。



「やっぱり高齢者も楽しい生活を送りたい」と、**介護保険ではできないサービス**について、有償ボランティア「ちよびボラ」を立ち上げ、動き出しています。

福祉施設の取り巻く環境は、働く人材の不足と、入所される高齢者が少ないのが実状です。特別養護老人ホームでは、**要介護3にならない方でも入所できるようになりつつあるので、月形町とも話し合っています。**

月形町へ・・・

買い物など生活するには不便かなと思っていましたが、住んでみたら、札幌には近く、人は優しくて自然も多いし、健康になりました。

都会で疲れた人たちを癒せる町づくりができればいいのにな、と思いました。

新規に起業するときに、町からの補助金がありますが、**申請文書が難しい**ので分かりやすくしてほしいです。

施策について、**周辺の自治体**がやっているのを見てから、取り組むという印象があります。早くに取り組んだほうが良いのではないのでしょうか。

災害時の衛生用品（おむつ・生理用品など）の備蓄は十分なのではないでしょうか。食料も含めて、**広域で連携して融通し合う**ような取り組みがあると安心ですね。

正直、町は何をを考えているのかになって思う。30年40年後の月形はどうなっているのか、**危機感を感じないのか。**

札幌まで車で1時間の立地なので、**札幌圏との直行バス**などがあれば、通勤圏・通学圏になると思います。

今、2,800人しかいない町で、**5～6,000人居た時と同じことをやっています**、いろいろと歪みが出てきているんじゃないかと思っています。

博物館は、アニメの効果で賑わいがあるので、**館内で撮影できるポイント**があっても良いのではないかと。

ドローンの導入と免許取得に、町から補助金を出してほしい。

住所の統一はできないものか。

アメダスを設置してもらい、**豪雪の町をアピール**すればよいのではないかと。

税金の使い方、「月形には、今何が必要なのか」というところに、**選択と集中**をやっていく必要があるのではないのでしょうか。

年齢が50歳を超えても、除雪車運転者の運転免許取得の助成をしてほしい。

コロナ禍で事業ができなく繰越金が多く残ったため、**町からの助成金がいきなりゼロ**になりました。これでは、会員の事業への取り組みにも影響がでると思います。

住宅 もっと柔軟な対応を



職場の方が、4月に町営住宅の家賃が上がるみたいで、**給料の1/3が家賃に消えてしまう**とのこと。

町営住宅も等級化し、築年数に見合った金額設定をしたほうが良いのではないのでしょうか。

最近は、転職して月形に来る方も多く、ある程度の年齢の単身者向け住宅が見つからず、**町外から通って働くこと**になっている例が複数あると感じます。

町営住宅に4月に入居したくても、3月に空いた部屋の掃除に**1か月かかる**と言われて、結局は他市町に住むことになりました。

単身者向けの住宅などで**コンテナ式の住宅**は導入できないのでしょうか。



施設で研修生を受け入れる時に、宿泊場所が無くて、研修を断ってしまうことがあります。町営住宅を短期間（1か月ほど）使わせてもらうなど、**柔軟な対応**をお願いできないでしょうか。

単身者向けの町営住宅の数が少なく、また、45歳を過ぎたら退去する必要がある、困っている人がいます。

子育て 支援の充実を



子育てで支援が手厚い自治体は、**生活の利便性が少し悪くても移住者は増えている**ように思います。

月形は、小学校6年生までは子育てにいい街だと思います。でも、**中学校に上がるころからは、進学などの問題**が出てきて迷うようです。

紙おむつの支給、ベビー用品のレンタル、保育留学、出産祝い金など、**子育ての施策・予算をもっと充実させて、子育て世代にウエルカム**であることを示せば、若い世代の転入が期待できるのではないのでしょうか。



人口が減り子供の数も少ないが、それをちゃんと受け止めたうえで**先を見据えた取り組み**が必要ではありませんか？

議会 もっと情報発信を



議場に**傍聴に行くのは抵抗感**があるので、別の形で発信してほしいです。

私たちも、文句ばかり言うのではなく、これからどのように町づくりをしていけば良いのか考えていくためにも、**議会にはもっと情報発信**してほしいです。